



この一年をふり返って

グループホームスタッフ 船戸 香世子

平成 27 年 3 月、初任者研修受講中に実習場所としてグループホーム「花みずき」でお世話になり、4 月より同「花みずき」で働いております、船戸と申します。よろしく願いいたします。

まず、私が介護の勉強をするきっかけからお話します。一昨年 10 月に私の母が脊柱管狭窄症で手術したのが始まりでした。それまでは脚の痺れや痛みがあるものの、旅行したり水泳に行ったりと、好きなことをし、ブロック注射を打ちながらも日々楽しく生活していました。

しかし、父と母の 2 人で生活しているため「この先、歩けなくなったらどうしよう」「子供に迷惑をかけるのではないか」という思いから、日赤病院で手術を受けました。術後、すぐに歩けると思っていた母と私は大変ショックを受けました。スムーズに歩くことができなくなったからです。すぐにリハビリが始まりましたが、退院する時も杖なしでは歩けませんでした。術後、看護師さんから「介護のお話を聞かれますか」と言われ、介護が必要なんだという現実を突きつけられました。

あらゆる所に手すりを付けることから始まり、介護保険の申請をし、レンタルで借りられる物を借り、リハビリデイサービスに通えるようになりました。そこで初めて介護やリハビリの必要性を知り、介護に興味をもつようになりました。また、兄は近くにいないので、私が両親をみなくてはいけない。しかも、夫の両親と同居しており、その両親もみなくてはいけないという立場にある私は介護の仕方や知識が全くないではこの先困るのではないかと考え、介護の勉強をしに行くことになりました。

勉強はしたものの、介護施設で働くとは思っていなかったのですが、介護の実際はどうなっているのかがわからなかったので、働くことに決めました。幸い、母は今でも痺れは残っているものの、ジムでウォーキングをしたり、日帰りの旅行ができるまでに回復し、徐々に日々の生活を楽しむようになってきました。

仕事についてですが、始めは認知症の方なので、どう接して良いのか不安でしたが、利用者さん一人ひとりの症状が違います。帰宅願望の強い方、同じことを繰り返して言う方、ご飯を食べていないと言う方、さっきしていたことが

分からなくなる方、幻覚症状がある方、言葉がきつかったり手が出る方等、皆さんの症状は同じ状態ではないので、毎日が大変忙しく、充実した一年を過ごしてきました。

経験も浅く、まだまだ若輩者の私が心がけていることは、笑顔で接すること、お話を聞くことです。笑いがあり、温もりのある日々を過ごしていただきたいと思っています。これからも努力いたしますので、よろしくお願いします。

